

独占インタビュー

米山隆一

新潟県知事

よねやま りゅういち・新潟県知事。1967年、新潟県湯之谷村(現魚沼市)生まれ。東京大学医学部卒業。92年、医師免許取得。97年、司法試験合格。2005年衆議院選など国政選挙で4回落選。16年10月から現職。



昨年10月の新潟県知事選で「柏崎刈羽原発再稼働は認められない」と訴えて当選した米山隆一知事が東京電力や経済産業省などからなる「原子カムフラ」と対峙している。その真意を小誌に熱く語った。

現状では柏崎刈羽原発の再稼働はありえない

初めてとなる当初予算編成では、福島原発事故の検証体制を強化しましたね。県議会は3月23日、体制強化を含む予算案を可決し、いよいよ実行段階に入ります。

三つの検証をしっかりと進める予算を4000万円つけました。事故原因については技術委員会で検証を進めています。原発事故が健康と生活に与えた影響を調べる「健康・生活委員会」と、避難計画の実効性を検証する「避難委員会」を新たに設置します。世界からのチェックにも耐えうる検証をしていきます。

国からの圧力はない

県知事選では「原発事故時の避難用バスの運転手確保が困難、再稼働は認められない」と訴えました。

避難計画は具体的でないというダメです。訓練をすることで実行できる体制になっていくかどうかとも検証していきます。計画を立てて試し問題点を明らかにし、それを計画にフィードバックしていくためには時間がかかります。

昨年12月に世耕弘成経産大臣、今年1月には東京電力ホールディングスの数土文夫会長と廣瀬直己社長と会いました。その時に「検証には3年から4年かかる」と明言しました。陳情などで嫌がらせや圧力は国からありませんか。

ないです。県民の民意に沿った正論を言っているので、「検証するな」と言われたことも、東京に陳情に行つて面会を拒否されたことありません。県の予算が決まると同時に国直轄の予算が決まるのですが、人口相当の予算規模で特に減ることはなく、逆に増えた予算もあったはずです。

それは他の首長にとっても貴重な話ですね。

そうですね。ただ東京には陳情で足しげく通っています。道路についても「なんでもかんでも造ってほしい」とは言いませんが、必要な道路建設については当然陳情しています。国とパイプを作る努力は必要だと思えます。

デンマーク大使と対談

米山知事を支援する後援組織「新潟の新しい未来を考える会」の設立総会が3月19日、東京都内のホテルで開かれました。エネルギー問題の専門家である元改革派経産官僚の古賀成明氏や「環境エネルギー政策研究所」の飯田哲也所長、映画監督の河合弘之弁護士らが駆けつけ、その後の夕食会には小泉純一郎元首相も参加。飯田氏の仲介で、新潟県は自然エネルギー拡大の先進国のデンマークと連携することになったと聞かれています。フレディ・スヴェイネ駐日デンマーク大使と対談、連携